

## ISM シンポジウム「階層意識研究と社会調査」

主 催：統計数理研究所

日 時：2010年8月9日(月) 13:00～17:30

場 所：統計数理研究所講堂

東京都立川市緑町 10-3 (多摩モノレール高松駅から徒歩約 10 分 他)

アクセス：[http://www.ism.ac.jp/access/index\\_j.html](http://www.ism.ac.jp/access/index_j.html)

開催趣旨：社会学の伝統的な研究テーマである「社会階層」に関わる構造的な問題とそれをめぐる意識は、主に 1955 年より 10 年に一度継続実施されてきた「社会階層と社会移動に関する全国調査」のデータに基づいて考察がなされてきた。格差社会と呼ばれる現代において、格差を巡る意識の実態・動態とその規定因の計量的研究は、更に重みを増したテーマであり、資料取得のために精度の高い社会調査が要請される。

今秋、大阪大学と統計数理研究所の共同企画による階層意識・社会意識をテーマとする全国調査を実施予定であり、その企画に当たり、あらためて階層意識の研究者と社会調査の専門家が、現代の計量的階層意識研究に求められる要件を議論する。

開催要領：参加無料、要事前登録

申し込み、照会先：E-mail: [chosanoe@ism.ac.jp](mailto:chosanoe@ism.ac.jp)

<http://www.ism.ac.jp/~maeda/ismsympo.html>

(オーガナイザ データ科学研究系 前田 忠彦)

---

### プログラム

司会：前田忠彦

挨拶：統計数理研究所の NOE 構築構想と社会調査研究への期待

北川源四郎 (統計数理研究所長)

講演

1. 日本人の階層意識の実像と社会調査：国民性調査と 1985 年 SSM 調査に関わった経験から  
坂元慶行 (統計数理研究所名誉教授)
2. 階層 (帰属) 意識研究の流れと今後の課題  
数土直紀 (学習院大学教授)
3. 階層意識調査の可能性 2010 年調査に向けて  
吉川 徹 (大阪大学准教授)

指定討論

盛山和夫 (東京大学教授)

吉野諒三 (統計数理研究所教授)

フロア・ディスカッション